

「龍ヶ崎市職員」奮闘の映画

30日上映 「歌まつり」継続に奔走

一人の市職員の頑張りにも触発されてまちが元気になる。龍ヶ崎市を舞台にしたそんな映画「再奏ほんど」が完成した。30日に同市駒馬町のシヨッピングセンター「リブラ」のシアターホールで、上映会が開かれる。映画をきっかけに、作中で描かれた架空の音楽イベントを、地域の人たちが実際に9月から毎月1回、定期的で開催することも決まった。

映画は、市が主催していた恒例イベント「龍ヶ崎歌まつり」が財政難で中止の危機に陥り、何とか開催さ

実際にイベント化決定

せようと走り回る男性職員との奮闘を、家族や地域の人たちとの交流を交えて描いた。

監督は、さいたま市で芸能プロダクションを経営する松尾義幸さん(51)。人々の絆や強いつながりを接着剤になぞらえ、「バンドをタイトルに使ったという。きっかけは昨年6月、知人に紹介された市内の商店主から、「まちが閑散としている。何かいい方法はないか」と聞かされたことだった。未経験の分野だったが、「地域を広くPRするには映画が一番」と考え、監督ばかりか脚本、撮影、

編集なども自ら担当した。当初、「映画なんて本当にできるの?」と懐疑的だった地元の人たちも、撮影が進むにつれて関心を寄せようになり、約40人がエキストラで出演した。

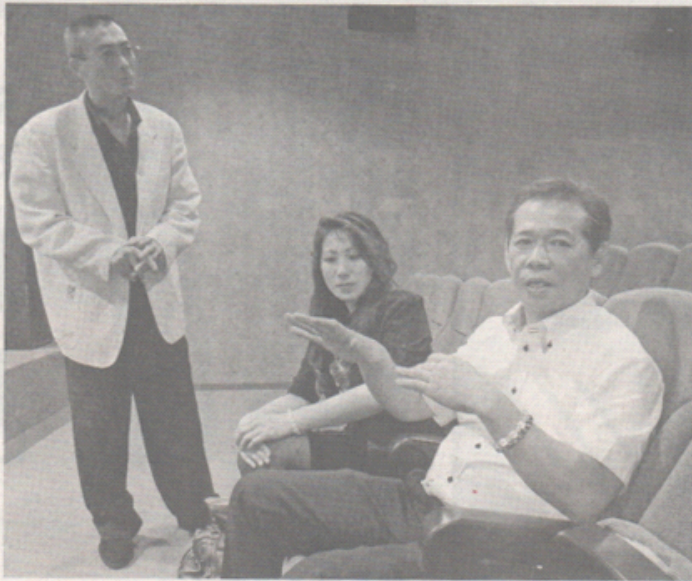
一方、先月、松尾さんが、撮影に協力してくれた商店

が進むにつれて関心を寄せようになり、約40人がエキストラで出演した。

一方、先月、松尾さんが、撮影に協力してくれた商店

が進むにつれて関心を寄せようになり、約40人がエキストラで出演した。

一方、先月、松尾さんが、撮影に協力してくれた商店



映画の説明をする松尾監督(右)、奮闘する職員役の武蔵拳さん(左)、妻役の貴口愛子さん

小404日49500円
小507日79500円
0120-184-315

街活性化のNPO法人「龍ヶ崎駅前コムハウス」の人たちに、「龍ヶ崎歌まつり」を実際にやってみてはどうか」と声をかけたところ、「それは面白い」と急に話が進んだ。

上映会は午後2時から。入場料1000円。7月からは、市内など県内各地、埼玉県内、東京都内で上映していくという。問い合わせは松尾監督(090・3140・2297)へ。